□筒井貞雄：**福岡県植物目録（1）シダ植物**　572 pp. 1988. 福岡植物研究会（筑後市山ノ井76 益村聖方）. ¥10,000. 福岡県の植物については中島一男氏：福岡県植物目録（1952年ガリ版刷り）が最もよく知られている。1975年には福岡県高等学校生物研究会（会長尼川大録氏）：福岡県植物誌が出たが，これは植生に重点を置いて大きな成果を挙げているものの，目録では中島氏をあまり抜いたものではなかった。今回の目録は，福岡県植物友の会の創立10周年記念事業として1968年に福岡県植物目録編纂委員会が組織されたことから始まり，1982年上記の研究会に改組されてから活発に，現地調査と標本収集が実施された。1986年には標本が5万点を越しており，5巻に分けられた福岡県植物目録は目下編纂中とのことである。今回出版されたのはその第1巻で，本県の最も活発なシダ研究家の筒井氏によって，1万5千点以上の標本と現在までの調査結果を基にしてまとめられたものである。巻頭に56ページ96図のカラーおよびモノクロの生態写真・標本写真・線画があり，本文は3部に分かれている。第1部標本目録には，全県産299種とその変・品種を含む合計382種類が並び，標本産地は研究会員89氏による15,317点，1種平均50点を，小地名から海抜高度まで詳しく（最近他県の書物では乱獲を警戒して詳しい記述をしないことが多いが）記し，分布や生態その他のノートもある。第2部標本図集は全部標本の直接コピーから作製したシルエットで，各種につき特徴ある形の葉数枚ずつの図845点を約1/5に縮小して並べてある。シダは葉の形や分かれ方が微妙で，線画ではつい描き損じることがあるが，この方法ではよくその特徴が現われ，点数の多いことと相まって図鑑として見ても成功している。第3部分布図集は等高線の入った地図に黒丸（大学など本研究会以外の所に保存されているものは白丸で区別）で示している。メッシュの大きさは5万分の1地形図16分の金井弘夫氏の方式に従っている。平面図のほかに 100 m 目盛りの高度分布も示してある。このように詳しくかつ責任を明らかにしたシダ植物の目録は，現在までわが国にはなかったようで，研究資料としての価値が高い。またシダ植物図鑑としても大いに役立つことが考えられる。

（伊藤　洋）

□NODA, Mitsuzo: **Marine algae of the Japan Sea**（野田光蔵：日本海の海藻）557 pp. 1987. 風間書房. ¥4000. 著者野田光蔵博士は戦前戦後の約50年に亘り主として新潟，佐渡ヶ島を中心に海藻を調査し多数の論文を発表した。本書はその集大成である。冒頭の章に日本海沿岸の海藻研究史があり（pp. 1～16），次いで緑藻44種，褐藻186種，紅藻306種及び藍藻31種，計567種の海藻についての記載がある（pp. 17～494)。ここには364に及ぶ解剖図等もあって理解を容易にさせている。なお，さきに多数の論文の中で著者が発表した新分類群はすべてここに収録されている。最後に新潟の海藻と題する章があり，ここだけ和文である（pp. 495～534)。断片的であった日本海中部沿岸の海藻相についての知見を集大成した本書刊行の意義は大きく，著者の労を多としたい。

（千原光雄）